



SWIFT Japan News

December 2011

- Sibos 2011 トロント報告
- スイフト全体戦略
2012年の Operating Plan、リポート及び
ビジネスフォーラムについて
- Sibos 2012 大阪に向けて
- オフショア人民元に関するガイドライン作成について
- SWIFT 株式の再配分について
- FXトレードレポジトリーとスイフト
- ウェブプラットフォーム経由のアコードサービス開始
- L.E.I. について
- 新規接続のご紹介
- ソリューションのご案内
- SMPG 活動報告
- PMPG 活動報告
- Security Officer の役割と責任
- 証券保管振替機構の「次期システムリプレース」と SWIFT
- SWIFT コンサルティング・サービス
- SWIFT 講習会

Sibos 2011 トロント 報告

1. 全体報告

今年の Sibos は、9月19日から23日の5日間にわたりカナダ屈指の経済都市であるトロントを舞台に開催されました。約200のパネルディスカッションやセッションおよび200以上の企業・組織が展示ブースを出展。世界各国から7,600人以上が集い、会場では連日熱い議論が繰り広げられました。アジアからの参加者も昨年を上回り、日本からは約220名の方にご参加いただきました。

第34回目の開催となる今回の Sibos では、「Regulation re-visited: 規制を再検討」、「Technology: 技術」、「Changing landscape, new expectations: 変化する展望と新たな期待」、「Global and local perspectives: グローバル、そしてローカルな視点」の4つのテーマを軸にプログラムが構成されました。リーマン・ショックから3年を経てリスク管理や規制が強化されるに加え、欧州のソブリン問題や米国経済の低迷により不透明感が高まるなか、今後金融界としてどのような成長戦略を描くべきか等が主な論点となりました。また中国など新興国の金融情勢に関するセッションも多数開催されました。初の試みとしてサイボス TV による会場での生中継、そしてバーチャルサイボス (Virtual Sibos) を利用することで見逃したパネルディスカッションやセッションの閲覧が Sibos 終了後も可能となりました。Sibos の詳細につきましては麗澤大学 中島真志教授によるご報告をご参照ください (<http://www.swift.com/jp> → “イベント他” → “2011年のイベント予定” ページに掲載されております)。

基調講演では、シティグループの President and COO である John Havens 氏とカナダ中央銀行の副総裁の Time



日本銀行 宮内 篤 決済機構局長

Lane 氏、そしてスイフト会長のヤワー・シャーと CEO のラザロ・カンポスが講演を行いました。Havens 氏は、新興国と先進国のデカップリングが進み、マクロ経済の俯瞰図が刻々と変化する中、銀行は新興国の持続的な成長を支えるツールを提供することで大きく貢献できると指摘。Lane 氏は金融危機の局面における強固な金融システムの重要性を強調しました。スイフト会長のヤワー・シャーは、欧米など先進国の市場を超えた地域での金融メッセージの通信量の伸びを促進するためにもっとできることがあると発言しました。また、スイフト CEO のラザロ・カンポスは、メッセージの通信量のみならず、多様化するニーズに対応できる経済制裁スクリーニングや 3SKey (スイフトのデジタルソリューション) 等のサービスを提供してきたと強調しました。スイフトにとって、これからはまさにペースを上げて、より高い目標を達成していく時期に来ていると締めくくりました。

Sibos トロントでは、日本銀行の決済機構局長 宮内 篤様が「大災害時のリスク: 最悪の事態に対応できる IT インフラとは」をテーマとしたセッション、そして三菱東京UFJ銀行の決済事業部決済管理グループ調査役 石嶋 和志様は「岐路にあるコレスポンデント・バンキング」をテーマとしたセッションにご参加いただきました。こちらのセッションの詳細は Sibos 閉会後でも、セッションの動画やスライドのオンデマンド閲覧が可能であるバーチャルサイボスにて Sibos Week Pass 保持者の方はご覧になれます。(バーチャルサイボスについては4頁をご覧ください)

2. Sibos2011で議論されたビッグ・イシュー

「Regulation re-visited: 規制を再検討」、「Technology:



三菱東京UFJ銀行 石嶋 和志 調査役

技術]、「Changing landscape. new expectations: 変化する展望と新たな期待」、「Global and local perspectives: グローバル、そしてローカルな視点」をテーマに掲げた今年の Sibos では、不透明感が高まるなかのようなかじ取りが求められているかを議論するセッションが多く展開されました。その中から、本年の最重要テーマを取り上げて討論する「Big Issue Debate」について概要をご報告いたします。

The post-Crisis Financial Transaction Infrastructure: what will it look like, and what do the changes mean for market participants?

2日目の20日には「危機後の金融決済インフラ - 展望と影響は？」というテーマでマッキンゼー・アンド・カンパニーのワールドワイド・マネージングディレクター Dominic Barton 氏がモデレーターを担当。中央銀行や銀行、そして DTCC のエグゼクティブの方々に討論していただきました。未曾有の金融危機を受け、規制強化の流れが加速する一方、リスクフリーで万能薬のような金融システムは存在しないという視点に基づいて議論が進められました。また強化されるリスク管理に対応するために多大な費用が必要となるなか、銀行はビジネスモデルを見直すと同時に、より戦略的な選択が迫られているという指摘もありました。

Back to Business: Where's the growth in 2012 and beyond?

21日には「2012年とその後の成長」をテーマに、CNBC のキャスターをモデレーターに迎え、銀行のエグゼクティブに討論していただきました。成長する新興国市場のニーズに耳を傾け、しっかりと対応していくことが、今後の銀行にとって大きなビジネスチャンスになるとの意見が交わされました。また技術革新により金融業界を取り囲む環境が目まぐるしく変化するなか、銀行にとって顧客の信頼と自信を取り戻すことが成功へのステップとなるとの意見もありました。

Closing plenary

22日のクロージングプレナリーでは「Bank2.0」の著者で Movenbank の CEO である Brett King 氏が、進化するイノベーションにより、金融業界が迫られている改革についての講演が行われました。

King 氏は、消費者の需要が急速に変化するなか、銀行も速やかに対応していく必要性を強調。またソーシャルメディアを舞台とした運動により政治体制の改革を余儀なくされた国々の事例を挙げ、変革の重要性を訴えました。最後にスイフト CEO のラザロ・カンボスは、「我々は悲観主義でもなければ楽観主義でもない。現実主義だ。」と表明。「これからはバーチャルの世界や新興国のような新しい環境での成長が期待できる。」と締めくくりました。

3. ほか Sibos2011 トロントの注目点

資金決済関係

ユーロの小口決済の統合を目的とする単一ユーロ決済圏 (SEPA) の普及率が頭打ち状態であり、自主規制アプローチが限界に達していることから、旧スキームの利用を禁止するエンドデートが SEPA の普及にとってカギとなること、またそのタイミングを巡る動きと影響について議論がなされました。

また The Federal Reserve Bank (連邦準備銀行) と Equens*(イークエンス) が主導となっている小口の国際送金の標準化と ACH(Automated clearing house) 間や銀行間のリンクにより、国際送金の効率化を目指すプロジェクトである IPFA (International Payments Framework Association: 国際決済フレームワーク協会) についても議論が行われました。

*イークエンス：欧州の小口決済の運営者。オランダ、ドイツを中心にサービスを提供。

証券決済関係

欧州各国の CSD の証券口座を集約して一元決済を目指すプロジェクトである Target2-Securities(T2S) プロジェクトの稼働時期が2014年から延期されることが発表されました。またリーマン・ショック後のリスク管理強化の流れを受け、関心の高まっている担保管理サービスが今回のサイボスでも注目を集めたテーマとなりました。

スイフトインデックス (SWIFT Index)

スイフトは、今年の Sibos トロントで、新たな世界経済バロメーターとなるスイフトインデックスを来年の第一四半期から提供する予定と発表しました。スイフトインデックスとは、スイフトのメッセージ通信データを元に開発された国内総生産(GDP)の先行指標となる新しいツールです。

スイフトのプライシング・ビジネスアナリシス部門の責任者である Andre Boico は、「投資家、アナリスト、エコノミスト、中央銀行、政策立案者が意思決定を行う上で、経済成長指標は最も重要なツールでありながら、タイムリーにこのような情報を入手することは難しい状況にあった。」と指摘。そして「スイフトインデックスは毎月公表されるため、通常四半期ごとに公表される国内総生産 (GDP) の統計に比べ、より速報性の高いものとなる。」としています。

世界経済が相互に関連し複雑さを増している現在、それらを予測する信頼性の高い経済成長指標が必要とされています。経済指標の価値は、変化をいち早く反映できること、健全で透明性の高いメソッド、関連する基礎データ、幅広い地域がカバーされていることなど、さまざまな要素の組

み合わせによって異なります。既存の指標の多くは、残念ながら上記の条件を十分に満たしているとは言えません。

一方、スイフトインデックスの元となるスイフトの銀行間送金決済メッセージ通信は、世界で幅広く使われていることから経済活動を映し出す鏡のような役割を果たしています。また外因的な事象による影響を除外しているため、信頼性の高いバロメーターといえます。

スイフトインデックスは、現四半期、及び次の四半期の国内総生産（GDP）予測も含まれます。通常の経済協力開発機構（OECD）がまとめる統計は、四半期が終了してから約6週間後に公表されますが、スイフトインデックスは、各四半期の最初の月初めに公表されます。

さらに、スイフトは国内総生産（GDP）をグローバル、地域、そして国レベルで予測するメソッドを開発しました。このメソッドは、ベルギーのルーヴァン・カトリック大学付属 Center for Operations Research and Econometrics (CORE、Université catholique de Louvain) の学識専門家によって正当性が立証されています。

スイフトインデックスは、来年の第一四半期から公表す

る予定です。グローバルスイフトインデックスはスイフトコミュニティの皆様が無料でご提供いたします。地域や国レベルでのご提供につきましては、ご提供開始の時期や有償、無償についての詳細が決まり次第、ホームページ等でご案内させていただきます。

バーチャルサイボス (Virtual Sibos)

Sibos 閉会後に、Sibos をバーチャルに体験できるサイトです。Sibos でのセッションの動画やスライドのオンデマンド閲覧、出展企業の製品デモンストレーションやオンラインでのコンタクトが可能なバーチャル展示ブースへのアクセスをご提供します。Sibos Week Pass の保持者の方は自動的にご参加ができます。Sibos Day Pass の保持者の方は追加料金でアクセス可能、また Virtual Sibos のみのご購入も可能です。見逃したセッションの閲覧だけでなく、Sibos 終了後にも繰り広げられるオンラインセッションへのライブ出席等もできます。バーチャルサイボスは年内、閲覧が可能となっております。

今回は初の日本開催となる Sibos 大阪が 2012 年 10 月 29 日から 11 月 2 日にかけて開催されます。

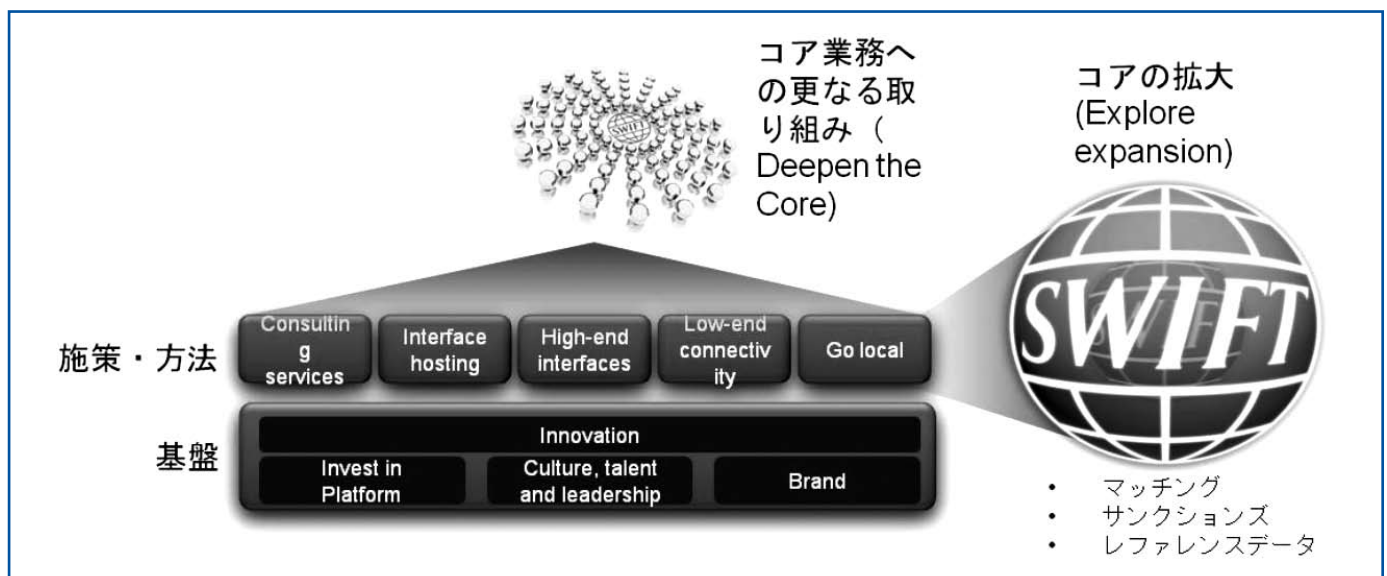
皆様方の多数のご参加を心よりお待ちしております。

スイフト全体戦略 2012年のOperating Plan、リポート及びビジネスフォーラムについて

1. スイフト中期戦略と 2012 年の Operating Plan

昨年の SWIFT JAPAN NEWS でもご報告いたしましたが、SWIFT の中期戦略である、SWIFT2015 の全体イメージは、以下の通りです。

SWIFT2015 全体像のイメージ



この中期戦略に基づいて、2012年のOperating Planが構築されています。このOperating Planにおける主要項目の概要は、以下の通りです。

主要項目	概要
Messaging：メッセージング	・ Release 7.0のロールアウトを完了し、RMA(Relationship Management Application)などの新たな部分の実効性を高めていく
Interfaces：インターフェース	・ Alliance 7.0を推進し、AMHに引き続き注力する
Connectivity：コネクティビティ	・ VPN Boxなどの既存のconnectivity packsをアップグレードし、Liteを更に推進する
Business Intelligence：ビジネスインテリジェンス	・ 幅広いビジネスインテリジェンスのツールを提供する
SWIFT Services：スイフトサービス	・ より充実した内容のサービス（ビジネスコンサルティング、ビジネスインテリジェンスコンサルティング、スタンダードコンサルティング、など）を提供していく
Swift.com：スイフトドットコム	・ SWIFTホームページの内容を充実していく。例えば、新規顧客に必要な書類（法的書類を含む）やSWIFT参加の際のプロセスを説明するなど、新規顧客向けの内容を充実させる
Standards：スタンダード	・ マーケットインフラによるISO20022の採用を推進する ・ ISO20022に関するコミュニケーションと認知度向上を図る ・ MyStandardsを開始する ・ SDK (Standards Developer Kit) を更に推進する
Platform Investments：プラットフォームへの投資	・ Distributed Architecture: スイスにおけるOPCの完成と米国におけるOPCの刷新を実施する ・ FIN renewal: FRONT-END、BACK-END、及びCONTROLのコンポーネントを開発する。展開のタイミングは、2014年以降を予定する

この2012年のOperating Planでは、日本における重点事項が2点記述されています。

- ・ JASDECプロジェクトに継続して取り組む（2014年にサービス開始）
- ・ 事業法人市場における事業機会を見極め、実行していく

2. リポート

SWIFTは、2011年のメッセージ量に基づく16%のリポート（ユーザーへの払い戻し）をSibos Torontoにて発表しました。このリポートは、コミュニティ全体で約52 million EURとなる予定です。なお、支払いは2012年1月に行われます。これは2011年1月1日に発表され、SWIFTコミュニティにおいて合計で年間7,000万ユーロの節約となったFINメッセージ料金の20%値下げに次ぐ大幅割引です。こうした値下げは、2009年にスタートした大型のコスト再構築プログラムおよびコスト管理に対する継続的な努力の結果として実現されました。

Sibos TorontoにおけるSWIFT理事会の会長とSWIFT CEOの発言を引用します。

- ・ **SWIFT 理事会会長 Yawar Shah (Citi, Managing Director)**：「20%の構造的な値下げに加えて16%の割引がされたことで、SWIFTの継続的な努力はユーザーの直接の利益となることが実証されました。」
- ・ **Lázaro Campos (SWIFT, CEO: 最高経営責任者)**：「SWIFT2015戦略の一環として、我々はユーザーが支払うSWIFTコストの削減に真剣に取り組んでいます。今回の割引はそれが実現された好例だと言えます。」

3. スイフトビジネスフォーラム東京

（詳細は、<http://www.swift.com/jp>に掲載）

スイフト・ジャパンは、2011年7月6日、「主導権を握るアジア」をテーマに、今年で5回目となるスイフトビジネスフォーラムを、ベルサール六本木で開催いたしました。会場には、過去最高となる450名を超える業界関係者をお迎えし、お陰様をもちまして、盛況に終わりました。



スイフトビジネスフォーラム東京の基調講演では、三菱東京 UFJ 銀行 常務執行役員 アジア本部長の森崎孝氏から、「本邦金融機関のアジア戦略」をテーマに、「世界経済の変化は、金融機関にとって、新しく多様なビジネスチャンスを提供する一方、国際金融市場における競争が激化するなか、当行を含め、日本の金融機関はしっかりとした業務戦略のもと、国際業務を展開して行くべきである」と語りました。

三菱東京 UFJ 銀行 森崎 孝 常務執行役員

主なスピーチは、以下の通りです。

- スイフト CEO ラザロ・カンポス「**2015 年に向けての SWIFT 全体戦略**」
- 三菱東京 UFJ 銀行 常務執行役員 アジア本部長 森崎孝氏「**本邦金融機関のアジア戦略**」
- 日本銀行 決済機構局決済システム課 企画役 谷本英行氏「**震災後の金融・決済機能の維持に向けた取り組みについて**」
- スイフト日本代表理事 / 三菱東京 UFJ 銀行 決済事業部長 石垣夢作氏「**SWIFT ボードメンバーレポート**」
- 日本スイフトナショナルメンバーグループ・ユーザーグループチェアパーソン / 三井住友銀行 証券ファイナンス営業部 上席推進役 川越洋氏「**Sibos 大阪に向けて**」
- インテックス大阪 専務理事・事務局長 川端健一氏「**Sibos 大阪に向けて**」
- ジョンソンコントロールズ アジア太平洋・中東地域 財務担当 Wolfgang Ratheiser 氏「**企業向け SWIFT を最高レベルで活用する**」
- みずほ総合研究所 調査本部金融調査部 主席研究員 三谷明彦氏「**バーゼルⅢについて**」
- 三井住友銀行 総務部 海外コンプライアンス室 室長 尾崎寛氏「**AML/CFT (マネー・ロンダリング対策 / テロ資金対策) とサンクション (経済制裁) 対応の最新動向**」
- 証券保管振替機構 ポストトレード・サービス部長 海野俊一郎氏「**ISO20022/SWIFT の導入に向けたプロジェクトの経過報告**」

また、SWIFT のコミュニティ貢献として、東日本大震災の被災地に、赤十字社を通じて、約 3 万ユーロを寄付したことも報告させていただきました。

最後に、スイフトアジア統括役員 イアン・ジョンストンから、来年の Sibos 大阪に向けて、9 月にカナダのトロントで開催しました Sibos2011 の参加を呼びかけ、フォーラムを締めくくりました。

今回のビジネス・フォーラムは、以下のパートナー企業様にご協賛いただきました。改めて御礼申し上げます。(順不同)

- ブロードリッジ ●ファンドテック ●NTT データジェトロニクス株式会社
- 住商情報システム株式会社 (現 S C S K 株式会社) ●スマートストリーム

スイフトビジネスフォーラムにおける 東日本大震災への寄付金のご報告

今年のスイフトビジネスフォーラムでは、ご参加者の皆様にあしなが育英会による東日本大震災で被災した津波遺児支援の寄付を募りました。皆様のご厚情により、合計で 40,007 円の寄付金が寄せられました。寄せられた寄付金に加えスイフトは同額の寄付金をあしなが育英会に合わせて寄付させていただきましたのでご報告いたします。

Sibos 2012 大阪に向けて

今年の Sibos は、9月19日から23日の5日間にわたりカナダのトロントを舞台に開催しました。多数のパネルディスカッションやセッションおよび200社以上の企業・組織が出展した展示会で構成され、世界各国から7,600名以上の非常に多くの方々にご参加頂きました。そして、現在、来年日本で初開催となる Sibos 大阪に向けて、いよいよ準備が本格化しております。

今後の Sibos 大阪に向けての主なマイルストーンは、以下のとおりです。

会議に関して

- 2012年 2月：スイフトが会議全体のメインピックの選定
- 2012年 3月：コミュニティの皆様にご報告
- 2012年 4月：ご講演者のご推薦の募集
- 2012年 5月：プログラム内容を Sibos のウェブサイトにて公表
- 2012年 6月：ご講演者の方のお名前を Sibos のウェブサイトにて公表
- 2012年 10月 29日：Sibos 大阪開催

展示会に関して

- 2011年 11月：会場のレイアウト検討のため下見
- 2011年 12月：出展に関するパッケージのご案内開始
- 2012年 3月：大阪にて出展者様とお打合せ
- 2012年 5月：出展者様との連携開始
- 2012年 10月 22日：展示会場の設置開始
- 2012年 10月 29日：Sibos 大阪開催

トピックの選定におきましては、スイフトのお客様等コミュニティの皆様、ご講演者様、スイフトの社員によるフィードバックやご提案、また昨年のアジェンダや他の金融会議、メディアにて活発となった話題等を考慮し検討してまいります。

講演者につきましては、すべての地域から幅広く、スイフトのお客様の中でも偏らないような形で選考します。毎年、ご講演者の方には、新たな視点をご提供して頂くためにも、なるべく新しい方をお願いしております。選考のプロセスは、スイフトのお客様等から推薦頂く講演候補者のお名前や詳細を頂き、スイフトにて最終決定致します。モデレーターは通常、ジャーナリストもしくはアナリストの方々に、そしてパネルディスカッションのスピーカーはスイフト並びにコミュニティの皆様からご推薦をいただきましたトップレベルのエグゼクティブの方々にお願いしております。

スイフトのアジアパシフィック統括役員であるイアン・ジョンストンは、「スイフトが世界の金融業界のために開催する Sibos は、会議や展示会が行われるだけのイベントではありません。送金決済、証券、キャッシュマネジメント、貿易などの各分野において協調し、集団的に討議することができる、ユニークな公開討論の場でもあるのです。」と述べています。グローバル化が急速に進む金融業界で、Sibos はコミュニティの皆様が国際金融の空気を肌で感じながら、意見交換のできる貴重な場でもあります。ぜひ日本初開催となる Sibos 大阪をグローバル人材育成の機会としてもご活用いただければ幸いです。

皆様方の多数のご参加をスイフト一同、心からお待ちしております。

オフショア人民元に関するガイドライン作成について

既に SWIFT のホームページ等から情報を取得されている皆様も多いかと思いますが、今年 4 月よりオフショア人民元の SWIFT 電文における取り扱いについてガイドライン作成が行われております。ガイドラインは、主に香港のユーザー様からのご要望により SWIFT Hong Kong がファシリテーターとなってワーキンググループを組成し、検討を進めました。送金・貿易関連、資金関連、証券関連の 3 つのワーキンググループがそれぞれの業務分野で使用される SWIFT 電文について議論し、ガイドライン草案が完成いたしました。草案公開に際してパブリック・コメントの募集がありましたが、全世界のコミュニティや市場慣行グループの 90% 以上の皆様から賛成、あるいはコメントなしとのご回答をいただきました。また、HKMA、HKEX、及び香港金融監督当局にはガイドライン作成の進捗について継続的に報告がなされております。

この草案の概略は、以下の通りです。

- ガイドライン導入に際して現行のオペレーションを妨げず、オフショア人民元業務のニーズに応じて必要とされる場合に利用できる。
- オフショア人民元に関連する可能性のある MT 電文を検討済み（送金・貿易関連、資金関連、証券関連の 27 電文）
- MT 電文のフリーフォーマット・フィールドの記述を利用

例：MT320 Fixed Loan/Deposit Confirmation

- 72 番フィールドを使用
- オフショア人民元であるかどうかは、定型のコードである PSET = Place of settlement（決済する市場）と ISO の国コード記入によって区別する /PSET/[ISO 国コード] /
- 以下の例は、香港で決済されるオフショア人民元：国コード HK
- フリーフォーマットによるその他の記述がある場合は先に記述し、オフショア人民元の情報には常に最後の行に記述

Message type	320
Optional Sequence H - Optional Additional Information	
Sender to Receiver Information	:72://<narrative text> //<narrative text> //<narrative text> /PSET/HK/
Optional Sequence I Additional Amounts	

詳細は、弊社ホームページ掲載の記事（http://www.swift.com/news/standards/chinese_Yuan_projects）、また同箇所からダウンロードできるガイドライン草案をご覧ください。なお、引き続き市場慣行グループと内容調整を行っておりますため、最終版発行時期は未定です。

SWIFT 株式の再配分について

SWIFT は、各株主の方々の利用実績に基づいて、3年に一度保有されている株式数の見直しをいたします。2012年はその該当年となっており、利用実績については2011年1月から12月のものを対象とします。以下質問・回答の形式で概要をご説明いたします。

SWIFT 株式再配分のプロセス

質問：対象となる利用実績にはどのようなものがあるか？

答え：SWIFT の株式の再配分は、2011年にSWIFTを利用した実績（Financial Contribution）に基づいて計算されます。対象となるのはNetwork Based Serviceと呼ばれ、FIN、FIN-copy、FileAct、InterAct、Browseなどの一般的なメッセージングサービスに加えて、CREST、ブロードキャスト、アコード、最低手数料、固定費プログラムでのお支払い、point-to-point 対象のリポートが含まれます。2011年に利用された前出メッセージング費用に対して発行されたクレジットノートは対象となりませんが、先のSibosで発表されたリポート（2012年1月に実施予定）は対象となります。

株主が行ったFinancial Contribution（支払い）には、株主である金融機関（通常本店・本社）及びその傘下にあるサブメンバーが含まれ、それ以外には2011年中に他の金融機関を買収した場合にも対象となります。

質問：一株の価値は？

答え：一株の名目価値はEUR 125で、再配分に利用される移転価格は一株EUR 3,300-です。この移転価格は2011年6月のSWIFT年次総会で決定されています。

質問：再配分のプロセスは？

答え：全体の株式は、2011年12月31日現在で登録されている株数を超えない範囲で再配分されます。再配分には以下2つのステップがあります。

1. ステップ1

2011年の利用実績（Network Based Serviceに関連するFinancial Contribution）に基づいて再計算されます。2011年12月31日時点で計算した再配分後の株式数が現状保有されている株式数と5株未満の場合には、再配分の対象とはなりません。差（新たな引き受け又は放出）が5株以上で株主のみに次のステップが適用されます。

2. ステップ2

不変更の株を除いて、5株以上の差が出る株主に関して改めて利用実績に基づいた計算を行い、結果を出します。

質問：追加引き受けの株式の払い込み方法は？

答え：対象株主は追加株式の購入のための払い込みを2012年4月30日までに実施してください。自動引き落としとなっている場合には、同日に引き落としが実行されます。

質問：そもそもこの再配分は何で定義されているか？

答え：SWIFT の定款であるSWIFT By-Lawsの第9章に再配分を少なくとも3年に一度実施することが定められており、同じくSWIFTのCorporate Rule 2.4.2にて再配分の定義がなされています。SWIFT By-LawsとCorporate Ruleはユーザーハンドブックに掲載されています。

FXトレードレポジトリとスイフト

2011年6月、AFMEのグローバルFX部門は、欧米圏における将来的な規制に対応するために、DTCCとSWIFTの協働によるFXデリバティブのトレードレポジトリサービスを推奨すると発表しました。トレードレポジトリはOTCデリバティブにかかるリスクを低減し透明性向上を目的とした設営が予定されています。今後FX OTC分野のさまざまなアセットクラスにおいて各国のローカル規制を遵守したトレードレポジトリの出現が予想されています。

現在DTCCとデータ交換をしている金融機関は、DTCC Global FX TRとのやりとりを、安全で標準的、即時にコスト効率化して行う必要があります。現在大手のデリバティブプレーヤーはFpMLを標準として採択していますが、SWIFTFINのような他のメッセージングを利用している金融機関も多くあります。FpML利用者は、今後メニーメニーのコミュニケーション用の広範なネットワークが必要となりますし、SWIFTFIN利用者には既存のインフラを継続利用するためにも既存のFINメッセージとFpMLのフォーマット変換が必要になります。

そこでスイフトは、DTCCへの情報フィードを下記の三形態でサポートする予定です。

1. FileActを利用してトレード情報をCSV形式で一括送信
2. FpMLフォーマットで個別取引情報をSWIFTNet経由送信
3. SWIFTFIN現行メッセージを継続使用しSWIFTNET FIN Inform経由、スイフトでFpMLに変換し送信
4. 上記3に加えて送受信コンファメーションのマッチングサービスを利用したい場合にはAccord利用可能

ウェブプラットフォーム経由のアコードサービス開始

スイフトの為替取引マッチングサービスであるアコードサービスをお使いのユーザー様は、これまでSAB (SWIFT Alliance Webstation) 経由でアコードGUIを利用していますが、2011年12月より、スイフトネットウェブプラットフォームにおける運用も可能になります。特にユーザー数の多い金融機関では今後のアップグレード等が簡便になるという利点もあります。SABでの継続利用も可能です。

アコードユーザー様には12月よりウェブプラットフォーム導入CDを送付します。

L.E.I. について

去る6月29日に、日本経済新聞に米国財務省のデリバティブ取引などの報告義務に関連して、金融取引主体を識別するためのコード (L.E.I. Legal Entity Identifier) の記事が掲載されました。これは、米国当局がリーマンショックのような複雑な金融取引を引き金にした金融危機を防ぐために、監視体制を強化したいという流れに沿うものです。米金融当局はそのためにドッド・フランク法を本年成立させました。更に米財務省は他国にも働きかけをし、FSB (Financial Stability Board) という主要国の金融当局の集まりを通じて、金融取引に関わる法人格の特定のためのLEIを推進しています。

SWIFTではDTCC及びISOと共にGFMA (Global Financial Market Association) に対して業界主導のソリューションを提示し、LEI UtilityというグローバルなLEI登録管理体制の推進をしています。一方、標準化の観点からは、ISOでISO 17442が定義されていますが、SWIFTはそのRA (Registration Authority) に認定されました。今後、SWIFTとDTCCはサービスプロバイダーとしてLEIに関する標準及び鍵となる参照データの保守サービスを提供します。

新規接続のご紹介

従来 SWIFT のユーザーの中心は、銀行、証券会社、運用会社となっております。近年、一般事業法人、保険会社などのユーザーも増加しています。SWIFT が提供するサービスの多様化という背景がありますが、業務規模、業務分野に合わせた接続方法の選択肢が増えていることもあげられます。

SWIFT を利用する場合、ユーザーに必用なハードウェア、ソフトウェアをご準備いただき SWIFT に接続していただく直接利用と、ハードウェア、ソフトウェアを第三者ベンダーが保持し、それに対し複数のユーザーがアクセスする間接利用がございます。後者のサービスを SWIFT では、サービス・ビューローと呼んでいます。

サービスビューローは欧米において、幅広く利用されております。日本においても、間接接続のサービス提供は従来からありましたが、近年選択肢が広がっています。利用規模、利用業務に応じたサービスが展開中で、従来よりもお手軽に利用できるサービスが増えてまいりました。

直接利用のために必要なアプリケーション

SWIFT を利用するにあたり必要なソフトウェア及びセキュリティ関連アプリケーション等の諸費用をパッケージした「Alliance Entry Kit」は、その名の通り初期導入ユーザー向けの製品です。

「Alliance Entry Kit」の初期導入費用は、EUR22,600、年間 EUR10,200 となっております。

この他にも業務規模、業務種別に合わせた多数の製品、オプションのご用意がございます。

注：上記料金には PC サーバーや ADSL の費用及び導入費用、他システムとの連動作業の費用は含まれておりません。

サービス・ビューロー

本邦には現在 3 社のサービスビューローがございます。

- パワーソリューションズ
- 三菱総研 DCS
- JSOL

各社が提供されているサービス、料金体系は異なります。業務内容・規模に合わせたご選択が可能です。

詳細ご希望の場合は、SWIFT にお問い合わせ頂くか、直接上記 3 社にご連絡下さい。

新規導入のお手伝い

現在、新規接続のお手伝いをする専門の担当者がアジア各拠点に配置されております。日本での新規導入に留まらず、海外拠点を含めた導入に関しましても専門担当者が連携し、お手伝いさせていただきます。

まずは、スイフト・ジャパンにお問い合わせ下さい。

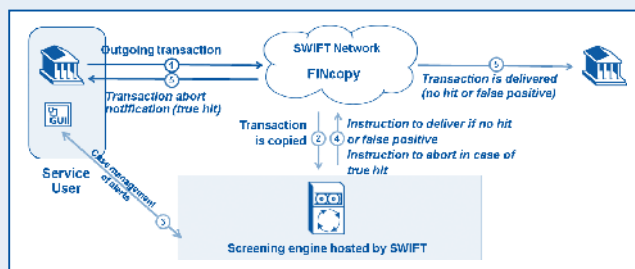
ソリューションのご案内

◆ SWIFT Sanctions Screening - AMLフィルタリングサービス

昨今の一層のAMLに関する規制のハードルが高まる中、SWIFTは、仕向・被仕向送金電文の経済制裁他ブラックリストの自動スクリーニングをまだ実施していない、主に中小規模の金融機関のユーザー向けに、SWIFTがセンターで管理・運営するリアルタイムベースのAMLスクリーニングサービスの開始を来年(2012年)予定しています。

主なサービスコンセプト

- 電文フィルタリングを提供するサーバーは、SWIFTのデータセンターに設置されSWIFTにより管理されます。SWIFTの他のサービスと同レベルの安全・耐障害性を提供します。
- ユーザー側でのシステム導入やバックオフィスシステムの変更は必要ありません。
- 業界最高水準のスクリーニングツールを使い、リアルタイムベースであらかじめユーザーが指定したブラックリストを使い、電文のAMLスクリーニングを実行します。
- 広くマーケットで認知されているベストプラクティスベースの標準的なスクリーニング設定を実装しています。
- 当サービスは、あらかじめユーザーがスクリーニング対象として指定した種類の電文のスクリーニングを実施し、特定された結果をアラートとしてウェブベースの画面で表示します。ユーザーはアラート結果に基づいて必要な調査を行い、取引の続行あるいは中止の判断を下します。
- 当局検査等に対応できるように、すべてのスクリーニングについて、証拠データが残ります。
- 下図が仕向電文の場合のスクリーニングフローの大まかなイメージ例となります。被仕向電文も同様にサポートします。



◆ SWIFTRemit について

毎年世界中で2億人以上の移民や出稼ぎ労働者が10～15億件の送金をすると言われていた現在、その送金による利益は年間150億米ドル以上とも推計されています。

銀行は今まで本支店のネットワークを使ったり、他銀行と共同したサービス、または資金決済業者のフランチャイズを使ったサービスを提供してきましたが、一方で、高い手数料や不確定な入金タイミング等、小口の郷里送金のニーズを必ずしも満たしていないとも言われています。

SWIFTRemitは、これらの問題点を解決すべく、相手行との契約書雛形、市場慣行を定義するルールブック、リファレンスデータや、個人向け送金により適した標準メッセージ(ISO20022)を合わせてご提供し、様々なリテール送金やその媒体(口座振替、現金、カード、小切手や携帯電話等)をサポート出来るフレームワークです。

従来のWorkers' Remittanceソリューションを発展させて、郷里送金のみならず、年金送金等にも対応できるようになり、SWIFTRemitを利用する資金移動業者との連携も可能になりました。

SWIFTRemitの主な内容：

契約書雛形：SWIFTRemitのルール、ガイドライン等のフレームワークに合った契約書の雛形のご提供により、よりスムーズな提携取引銀行との業務合意締結をサポートします。

市場慣行ルールブック：SWIFTRemitをご利用いただくすべての銀行、業者間で共有する個人向け送金の業務ルールの要点をまとめたものです。個別に顧客に対するサービスレベルを取り決める代わりに、参加ユーザーすべてがルールブックで設定されたサービスレベルを採用することにより、送金タイミング(Standard, Urgent, Instant, Real-Time)や手数料の透明性等に関する問題に取り組みます。

リファレンスデータディレクトリ：オンラインで、銀行間のルーティングや資金移動業者のリファレンスデータを提供いたします。

標準メッセージ(ISO20022)：既存の送金指図、組み戻し等の為のISO20022電文に、SWIFTRemit固有の必要情報を反映する為のサブセットを用意しました。

SWIFTメッセージング：ストアアンドフォワード型FileActをご利用いただきます。

SMPGワーキング・グループA 活動報告

SMPGのグローバル会議は2011年4月にはサンパウロ、同10月にはプラハで開催されました。ワーキング・グループAでは、通常の証券決済関連事項で、決済指図、決済状況確認通知、残高通知等の詳細を検討しています。

2011年にSMPGで検討した内容は、主にグローバルな市場慣行を明記したグローバルドキュメント(以下GD)をMT(ISO15022)ベースにて策定していますが、その内容にMX(ISO20022)分を追加すべく改定作業を行っています。改定作業では、グローバル会議以外にも電話会議等を通じて審議し、最近の規制や制度的な環境変化に伴う変更も反映されるように検討中です。また、ブラジル、南アフリカ等の新興国からの参加者も増え、夫々の国で特有な内容も可能な限り盛り込んでいます。

GDとしては、レポ取引、ETF取引、印紙税処理方法、オプションや先物関連のデリバティブ取引、定時償還債券取引、定期預金取引、証券決済場所(PSET)と証券保管場所(PSAF)の通知ルール、金融商品通知方法、証券残高通知(MT535)等の内容を策定中です。加えて、新規上場取引や決済相手先のBreakdown等の個別ケースに関する検討も行っています。

更に、国際的に取引状況の把握を容易にする為のツールとしてLEI(Legal Entity Identifier)の導入に向けた国際的な議論にも参加しています。LEIは発行体、投資家、保証会社、各種の投資スキーム等の多様な主体にコードを付番することです。米国を中心にLEIの導入に積極的であり、既にIOSCO/CPSSからも市中協議案が提示されており、LEI導入に向けた国際的な議論が展開されています。日本の金融業界ではLEIの導入に慎重な立場ですが、標準化や効率化を推進しているSMPGではLEIの導入を支援しています。

MyStandardsの紹介がSMPG会議の中で行われました。MyStandardsとはSWIFTのStandardsチームにて開発されたもので、Webベースで種々のデータを蓄積・保存し、利用者の用途に従い、加工・修正することが出来るもので、非常に利便性の高いツールです。今年のトロントSibosでも説明され、非常に好評を博しています。その機能はISO20022メッセージの定義や利用ルール、SWIFTの定例修正の詳細説明やそのシステムインパクト等を詳しく説明する機能があります。SMPGではMyStandardsを利用して各国の市場慣行やGD等を公表する予定です。MyStandardsは現在Open Pilot中ですが、来年の後半には広く一般に利用出来る環境が整備される予定と聞いています。

三菱東京UFJ銀行 決済事業部 森 剛敏 / 森田 静

SMPGワーキング・グループC 活動報告

ワーキンググループCでは、従来からグローバルなユーザーグループの会議体であるSMPG(Security Market Practice Group)と密接に連携を取って、コーポレートアクションに関連する証券メッセージの標準化を検討しております。

2011年には、定例の年次改正(Change Request)に関する意見集約の他、SMPGのイニシアティブにより各国ユーザーグループが長らく熟慮を重ねてきたEIG Matrix(Event Interpretation Grid Matrix)の世界標準化へ向けた作業を行いました。これは、各国において色々なコーポレートアクションをどのような形式で表示するかということ、イベントタイプごとに一覧表にする作業です。SWIFTスタンダードでメッセージの構成が細部まで規定されていないところは、ユーザーによって複数の表示形態が並立していますが、今回の作業ではこれらを網羅的に集積すると

ともに、各国毎に異なった表示方法についてはグローバルな観点から標準化していく必要があり、それを4月のリオ・デ・ジャネイロにおけるSMPG会議をはじめ月1回のペースで開催される電話会議にて議論しました。

今後についても、一つ一つのイベントタイプ毎に各国内での標準化はもとより世界標準として統一的な表示形式にしていくべく、議論を重ねコンセンサスを図りつつ集約していくこととなりますが、まずは来年の早い段階で一定の成果を得るスケジュール感にて動いております。

こうした議論の過程において、日本におけるカスタディアンだけでなくコーポレートアクション情報の発信を実際に行っている東京証券取引所及び証券保管振替機構からも参加を頂き、発行体に近いところからの視点でも見ていただけることは、所謂上流部分も含めたコーポレートアクションの標準化の推進にとって意義あるものと考えております。

みずほコーポレート銀行 山本一郎

PMPG活動報告

PMPG (Payments Market Practice Group) はグローバルな Payment (支払決済) 分野における様々な慣行と現状の問題点の理解に基づき、その時々注目の分野毎の推奨慣行の公表を通じて、標準化と STP 化を推進している民間の任意団体です。SWIFT 参加メンバーの有識者が任意に集まり、SWIFT というインフラ面の切り口では解決できない支払い関連の諸問題への解決策を提議しようと 2006 年に活動を開始し、現在は 14 ヶ国・地域、16 名の民間金融機関メンバーに、SWIFT が事務局機能を提供して活動しております。実際の活動は年 2 回の会合とほぼ月次の電話会議で、日本からは三菱東京 UFJ 銀行が参加しております。

これまで PMPG は、SWIFT から独立した組織として運営されて参りましたが、国際間の支払いに関する課題は、SWIFT に関連するものが多数を占めていることから、昨年 12 月に SWIFT の BPC 傘下のアドバイザリーグループとして位置づけられ、SWIFT 理事 1 名がメンバーとして追加されるなど、SWIFT との結びつきが一層強化される事となりました。

新体制の下、PMPG のホームページも SWIFT のホームページ内へと移動し、ロゴも刷新して、心機一転、益々活動の場を広げつつあります。

本年 9 月には、Sibos 前週の金曜日に、記念すべき第 1 回目の年次フォーラムをトロントにて開催致しました。これは Mini Sibos とでも呼ぶべき内容で、昨今の支払い分野における話題を中心に、世界各地より約 60 数名の中央銀行、決済機関、民間金融機関からの招待者が一同に会して活発な議論が行われ、好評を博しました。来年は大阪で Sibos が開催されるため、本年同様 Sibos の前週に、第 2 回目の年次フォーラムを開催する予定です。

年次フォーラムに続いてトロント Sibos では、PMPG の活動を紹介する単独セッションを実施致しました。また、Sibos 直後には恒例のメンバー全員が一堂に会しての会合が丸一日を通して行われ、「オフショア人民元」「FATCA (外国口座税務コンプライアンス法)」「米国 Fedwire/CHIPS 書式変更」など、様々なテーマに関する討議を行いました。

今後とも益々重要さを増すグローバルな支払いに関する実務面での幅広いテーマにおいて標準化を推進して参ります。

PMPG の活動の概要や資料等をご覧ください。際やご要望・ご意見をお寄せいただく際には、<http://www.pmpg.info> が便利です。

三菱東京 UFJ 銀行 石嶋和志

Security Officer の役割と責任

1. Security Officer とは？

SWIFTNet Security Officer (以下 Security Officer と略す) は、ユーザーの SWIFTNet セキュリティに対する代表者です。Security Officer は SWIFTNet セキュリティに関する窓口の役割があり、ユーザーの電子証明書 (PKI や DN など) の管理責任者です。Security Officer の登録は各ユーザー毎に少なくとも、2 人以上が必須です。

電子証明書の管理

電子証明書 (PKI や DN など) は SWIFTNet へのアクセスに必要不可欠なものです。

例) SWIFTNet Link の接続、FIN・RMA・Accord・TSU などあらゆるサービスの使用、FIN や RMA 電文の署名など

電子証明書の管理方法には、以下の 2 つがあります。

- **SWIFNet 上で行える管理操作 (online intervention)**

SWIFNet インターフェース (SWIFNet Online Operations Manager) を使用し、SWIFNet を介してオンラインで電子証明書を管理します。

例) ユーザー電子証明書の作成、権限付与、停止、無効化、復旧

- **Secure Channel ウェブサービスで行える管理操作 (offline intervention)**

Secure Channel ウェブサービスでは、有効化された Secure Code Card を所有している Security Officer が swift.com の Secure Channel を使用して以下の操作を SWIFT にご依頼頂けます。

例) 電子証明書の復旧、電子証明書シークレットファイルの再発行、SWIFNet Link 電子証明書の復旧

2. Secure Channel とは?

Secure Channel とは、2007 年 9 月 24 日より開始しました swift.com 上のウェブサービスです。このウェブサービスは、SWIFNet へ接続するために必要な電子証明書 (PKI や DN など) の復旧作業に必要なものとなります。

Secure Channel をご利用頂くための条件

1. Security Officer の swift.com ユーザー登録。
2. Secure Code Card の保持と有効化。

Secure Channel が提供するサービス

Secure Channel から、以下の作業を行うことができます。

セキュリティーオフィサーの管理

- 登録されたセキュリティーオフィサーの一覧
- セキュリティーオフィサーの住所情報の変更
- セキュリティーオフィサーの追加
- セキュリティーオフィサーの削除
- 二人のセキュリティーオフィサーによるセキュリティーリクエストの承認の設定

セキュアコードカードの管理

- セキュアコードカードのステータス確認
- セキュアコードカードの有効化、および無効化
- セキュアコードカードの一時的な無効化、および復旧

電子証明書 (PKI) の管理

- セキュリティーオフィサー用電子証明書の初期シークレットの発行
- 電子証明書の無効化
- 電子証明書の復旧
- 電子証明書の無効化と廃止
- 電子証明書復旧依頼の取り消し
- 電子証明書 管理権限の第三者への委譲、および委譲の停止

SWIFNet Link インポートファイルの管理

- 初期 SWIFNet Link インポートファイルの発行
- SWIFNet Link インポートファイルの再発行
- SWIFNet Link インポートファイルのロック解除

レポート

- Secure Channel 上での作業履歴の確認

※一部処理には手数料 500EUR、(緊急時には 1,000EUR) が発生する場合があります。Secure Channel の機能の詳細や作業手順については、Secure Channel User Guide (Knowledge Base tip 2118161) をご参照下さい。また、有料処理を避けるため、事前の Security 管理をお願いいたします。

※処理後、パスワード等の取得には URL (<https://secure-channel.swiftnet.sipn.swift.com>) へのアクセスが必要となります。SWIFNet に直接つながっている PC (SNL のホストまたは直接接続の Webstation) のスタンダードのインターネットブラウザ (インターネットエクスプローラー等) を使用していただく必要があります。リンクが開けられるかどうかお試しください。ご了承ください。

Secure Channel サービスが必要となるケースの一例

SWIFTNet Link の電子証明書の有効期限が切れたために SWIFTNet へ接続できなくなりました。この時、Security Officer が Secure Channel に登録され、有効なセキュアコードカードを持っていれば、その場で電子証明書の復旧を依頼することができ、(有料とはなりますが) ビジネスの継続を図れます。しかし、もし登録が未完了の場合、登録のための手続きに数日かかる場合があり、ビジネスに大きな影響を与えてしまう恐れがあります。

Secure Channel へのアクセス方法

Secure Channel ウェブサービスは、SWIFT のホームページ (<http://www.swift.com/>) の「Support」メニューよりアクセスできます。

なお、Secure Channel 登録後、ご本人様確認用の Secure Code Card が Security Officer に送付されます。また、Security Officer の変更時には手続きの一環として、新 Security Officer に Secure Code Card をお送りしております。Secure Code Card を使用するにあたり、Secure Channel ウェブサービス上で有効化の手続きを事前に行って頂く必要があります。

Security Officer の方は必ず **Secure Channel をご利用頂くための条件を満たしているかどうかのご確認をお願いいたします。**

最新の情報は、SWIFT Japan の日本語ホームページ (<http://www.swift.com/jp>) の「サポート」メニューをご参照ください。

= カスタマーサポートセンターご連絡先 = (日本語でのお問い合わせ窓口)

* E-mail: csc.jp.generic@swift.com (日本語可)

* 電話番号 : (03) 5223-7456 (日本語対応受付時間 平日 9:00-17:30)

SWIFT カスタマーサポートセンターにお問い合わせいただくには、[swift.com](http://www.swift.com) のユーザー登録が必須となっております。ユーザー登録をされていないお客様は、まずご登録いただきますようお願いいたします。

SWIFT オンライン・サポート - 新規ユーザー登録方法

1. SWIFT のホームページ (<http://www.swift.com/>) にアクセスし、トップページの Customer login 下、「Register now」をクリックします。
2. ユーザー登録画面にてユーザー情報を入力し、「Continue」をクリックします。
3. サービス選択画面にてご希望のサービスを選択し、「Submit」をクリックします。
4. E-Mail 欄に入力した e-mail アドレス宛に確認メールが届きます。メール内のリンクをクリックして確認画面を開き、Submit をクリックします。
5. Swift.com administrator (お客様の中でご登録いただいているユーザー管理者) の承認後、登録完了の通知 E-mail が届き、登録完了となります。

ユーザー登録方法の詳細は、SWIFT Japan の日本語ホームページ (<http://www.swift.com/jp>) の「サポート」メニュー からご確認いただけます。

日本語ガイド URL : http://www.swift.com/jp/support/new_users_registration.page?

ご質問・ご不明点等ございましたら、サポートセンターまでお気軽にお問い合わせください。

証券保管振替機構の「次期システムリプレース」とSWIFT

証券保管振替機構（以下、機構）による次期システムリプレースの概要説明が正式に本年8月末に東京と大阪で開催されました。当日、機構から「時期システムリプレースに関する説明会」と題された冊子が配布され、それに基づき次期システムリプレースの概要、次期システムリプレースに係わる情報発信方法、ネットワーク対応概要、ISO 20022 対応概要に関して説明がなされ、SWIFTからはSWIFTによる証券保管振替機構接続について、という表題で説明を加えました。

2018年末までには全機構参加者はJEXGWへの接続を現在のフォーマットからXMLベースのISO 20022（機構がサポートするのはISO 20022 標準スキーマ、JASDEC 標準スキーマ、JASDEC 限定スキーマの3種があります）への移行を完了させる必要があります。2013年後半からは参加者テストも開始される予定となっています。また2014年1月に予定されているサービスインに合わせて、貸株の決済方式が担保指定証券方式に変更されますし、決済照合システムでの誤差照合の導入も計画されています。これら制度変更への対応を必要とされる金融機関は、ISO 20022 対応と合わせて、いくつかのスケジュール上の対応の選択肢から自社対応を考察することとなります。

JEXGW 接続においては統合ネットワークとSWIFTNetの選択が可能となります。参加金融機関が検討を加える場合、両ネットワークでの差異を十分に認識いただくことをお勧め申し上げます。SWIFTNetを採用される場合、いくつかの利点をあげることが出来ます（統合ネットワークとの

詳細な対比という観点では、統合ネットワークの仕様が、2012年1月末または2月初旬公表予定である接続仕様書を待つ必要があります）。

- SWIFTの既存ユーザーは現在保有いただいているSWIFTの再利用が基本的に可能です。
- 機構に対してメッセージを送信する時間に制約がありません(SWIFTのキューに蓄積されるという意味です)。
- 海外にSWIFTインフラがある場合でも、そのままその拠点からメッセージ送受信が可能です。
- 参加者側での電文制御のための仕組みは不要と考えられます。
- SWIFTでは、ISO 20022 移行コストを抑えるためのEAP (Early Adopter Program - 早期参加者向けインセンティブ) を提供します。ちなみに本邦での主要カストディ銀行であるHSBC様は上記EAPへの参加を9月にカナダのトロントで開催されたSibosにおいていち早く発表されています。
- 現在はSWIFTに加盟されていない金融機関は、機構接続に加えてその他の業務分野での自動化(STP)・コスト削減を実現できる可能性があります。

機構のユーザーが、今後ご検討される際には、ネットワークレベルでの対比ではなく、移行コストも含めた全体コストの見地からの検討をお勧めいたします。詳細につきましては、上記のEAP (Early Adopter Program - 早期参加者向けインセンティブ) の内容を含め、日本のオフィスまでお問い合わせいただければ幸いです。

SWIFT コンサルティング・サービス

Understanding your challenges, providing solutions

昨今金融業界においてはコスト削減、業務効率性、業務自動化及び最適化はあらゆる側面において重要性が高まっています。SWIFTではユーザーが直面する様々な課題を支援する為、SWIFT エキスパートによるコンサルティングサービスを提供しております。

4つの分野、業務コンサルティング、テクニカルコンサルティング、システム導入サポート、プロジェクト管理を柱として展開しております。各々のコンサルティングには査定・分析、デザイン、導入、運用管理などの4つのフェーズがあり、一括プロジェクト管理しております。ビジネスコンサルティングでは、Standards 導入 (Gap 分析等)、業務 STP 化分析、トラフィック分析などの業務に直結したコンサルティングをしております。テクニカルコンサルティングでは新規 SWIFT システム導入、インフラテクニカル分析、Volume テストおよびユーザー間テストまで様々なコンサルティングサービスを提供しております。

コンサルティングサービス導入ケース

- | | | |
|----------------|------|---------------------------|
| • 香港 金融機関 | 68 日 | SWIFTNet/Alliance 7.0 導入 |
| • オーストラリア 金融機関 | 38 日 | SWIFT 業務 STP 化分析 |
| • 韓国 金融機関 | 28 日 | SWIFT システム導入 (AIX) |
| • 日本金融機関 | 21 日 | Standards Gap 分析 |
| • 日本金融機関 | 3 日 | Alliance Lite 導入 / トレーニング |

お客様のご要望に応じて様々なコンサルティングサービスを提供しております。詳細情報および料金体系については担当セールスマンまでご相談ください。

S W I F T 講 習 会

2012年1月、2月及び2012年前期SWIFT講習会日程予定は下記の通りです。今年より事業法人向けのSWIFT講習(SWIFT for Corporate)を開催いたします。

1月【1月11日(水)～26日(木)開催予定】@東京 日本生命丸の内ビル 20F スイフトジャパン

1月11日(水)	Basics - Your passport to SWIFT
1月12日(木)～13日(金)	Payments and cash management - using FIN messages
1月18日(水)～19日(木)	Securities Settlement and Reconciliation - ISO15022 messages
1月20日(金)	Corporate Actions - ISO15022 messages
1月25日(水)	Operating the Relationship Management Application
1月26日(木)	Introducing FIN

2月【2月8日(水)～22日(木)開催予定】@東京 日本生命丸の内ビル 20F スイフトジャパン

2月8日(水)	Basics - Your passport to SWIFT
2月9日(木)～10日(金)	Payments and cash management - using FIN messages
2月14日(火)	Forex and Money Markets - using FIN messages
2月17日(金)	SWIFT for Corporates
2月22日(水)	Release Seminar 7.0 for SWIFTNet and Alliance

3月【3月7日(水)～15日(木)開催予定】@東京 日本生命丸の内ビル 20F スイフトジャパン

3月7日(水)	Basics - Your passport to SWIFT
3月8日(木)～9日(金)	Payments and cash management - using FIN messages
3月14日(水)～15日(木)	Securities Settlement and Reconciliation - ISO15022 messages

4月【東京4月11日(水)～24日(火)開催予定】

Basics - Your passport to SWIFT, Payments and cash management - using FIN messages, Forex and Money Markets - using FIN messages, Introducing FIN, Operating the Relationship Management Application

5月【東京5月9日(水)～25日(金)開催予定】

Basics - Your Passport to SWIFT, Payments and cash management - using FIN messages
Securities Settlement and Reconciliation - ISO 15022 messages, Corporate Actions - ISO 15022 messages, SWIFT for Corporate, Understanding SWIFTNet services and security

6月【東京6月13日（水）～27日（水）開催予定】

Basics - Your Passport to SWIFT, Payments and cash management - using FIN messages, Forex and Money Markets - using FIN messages, Operating the Relationship Management Application, ISO 20022 and MX messages-overview

7月【大阪7月10日（火）～13日（金）開催予定】

Basics - Your Passport to SWIFT, Payments and cash management - using FIN messages, Operating the Relationship Management Application

7月【東京7月18日（水）～27日（金）開催予定】

Basics - Your Passport to SWIFT, Introducing FIN, Managing PKI with Browse, Managing Alliance Access, Managing Alliance Gateway

8月【東京8月8日（水）～24日（金）開催予定】

Basics - Your Passport to SWIFT, Payments and cash management - using FIN messages, Corporate Actions - ISO 15022 messages, Securities Settlement and Reconciliation - ISO 15022 messages, Operating the Relationship Management Application, Understanding SWIFTNet services and security

* 日本スイフトユーザーグループ(SUG)に加盟されている場合は、社内 SUG ご担当者様より所定の書式でお申込みください。

* SUG に加盟されていない場合は、swift.com ホームページより Training >> Course Schedule >> country Japan を選択し該当講習コースをお申込みください。（オンライン申込みができない場合には tomoko.suruki@swift.com までご連絡ください。ファックス申込み用紙をお送りいたします。

* 2012 年後期講習日程予定は (<http://www.swift.com/jp>) もしくは日本スイフトユーザーグループホームページよりご覧いただけます。またスイフトにて提供してます講習一覧カタログ（日本語）を swift.com よりダウンロードすることができます。是非ご活用ください。（http://www.swift.com/training/misc/download_the_swift_training_course_catalogue/index.page?）

スイフト インターフェースアップデート

SWIFT は新しいバージョンとして、SWIFTNet 7.0 のリリースを行いました。それに合わせまして、各 Alliance 製品 7.0 バージョンを 2010 年 1 月にリリースいたしました。既に多数のユーザー様が 7.0 バージョンへ移行されております。既存の Alliance 6.x のサポート期限は 2012 年 3 月末となっておりますので、それまでに 7.0 バージョンへの移行を終了いただきますよう、お願い申し上げます。

Alliance Access/Entry のバンドアップグレードについて

Alliance Access/Entry (SAA/SAE) のライセンス料金（一時費用）と年間保守料金は、一日の本番 FIN メッセージの平均送受信件数によって決定されます。このバンドは、毎年過去 12 ヶ月の 1 日あたりの平均送受信件数を計算することによって見直され、その結果が現在ご契約のバンドよりも大きい場合は、バンドアップグレードの対象となります。その際は、SAA/SAE のベースライセンス、デスティネーション、全てのオプションの一時費用、年間保守費用が新しいバンドに基づいた料金となります。

<バンドの計算方法>

過去 12 ヶ月のトータル送受信件数（本番メッセージのみ） 過去 12 ヶ月の総営業日数

<お支払いのスケジュール>

バンドアップグレードの対象となった場合は、毎年 10 月に弊社本部よりその旨書面にて事前にご案内いたします。

- ・一時費用の差額……………同年 12 月にご請求、翌年 2 月上旬の自動引き落とし
- ・新しい年間保守費用……………翌年分より適用

翌年 1 月にご請求、翌年 3 月上旬の自動引き落とし

本件についてご不明な点がある場合は、スイフトジャパンの担当営業までご連絡ください。

バンド	一日の平均送受信件数
-1	～ 250 件
0	～ 500 件
1	～ 1,000 件
2	～ 2,000 件
3	～ 5,000 件
4	～ 20,000 件
5	～ 50,000 件
6	～ 100,000 件
7	～ 250,000 件
8	～ 500,000 件
9	500,001 件～

スイフト・ジャパン株式会社 事務所移転のご案内

弊社は 2011 年 5 月に下記住所へ移転しました。電話番号・ファックス番号は従来の番号をそのままご使用いただけます。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

スイフト・ジャパン株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-6-6 日本生命丸の内ビル 20 階

代表電話 03-5223-7400

ファックス 03-5223-7439

ホームページ www.swift.com/jp

SWIFT の関連情報をインターネットで

SWIFT に関する情報は SWIFT のホームページ、www.swift.com に掲載されています。どうぞご利用下さい。

本冊子のいかなる部分についても一切の権利は SWIFT に属しており、方法の如何を問わず、いかなる目的でも無断での複製又は転載等を行われぬようお願い致します。

偶然または意図しない間違い、遺漏等に対する責任は負いません。

全ての記述は関連するユーザーハンドブック等の SWIFT の発行する英語版の該当部分が優先します。

SWIFT Japan Tel: 03-5223-7400 Fax: 03-5223-7439

Customer Support Center Tel: 03-5223-7456 Fax: 03-5223-7439